

研修会報告

平成 27 年 6 月 28 日

文責：血液部門長 菅原 新吾

血液部門研修会

研修会テーマ「凝固検査スキルアップのエッセンス」

開催日時 平成 27 年 6 月 20 日（土）14：00～17：00

会場 東北大学医学部保健学科委大講義室

・平成 26 年度宮臨技画像サーベイのフォローアップ

講師：宮臨技精度管理委員(血液部門) 仙台医療センター 伊東 貴美 技師

・講演：「非弁膜症性心房細動における抗凝固療法」

講師：ブリストル・マイヤーズ株式会社 宮島 良一 先生

・講演：「血液凝固検査と関わりの深い静脈血栓塞栓症の基礎について

～診断・治療・検査の最新トピックス～

講師：シスメックス株式会社 阿部 一郎 先生

生涯教育点数 専門 20 点

参加者：会員参加者 26 名 学生 2 名 実務委員 4 名 計 32 名

内容

テーマを「凝固検査スキルアップのエッセンス」として血液部門研修会を行った。例年、凝固検査をテーマとした研修会では主に基礎的な内容に重点をおいてきたが、今回は基礎に加え、疾患と治療薬にフォーカスを当てた内容とした。また昨年度精度管理調査画像サーベイのフォローアップを合わせて行った。

平成 26 年度画像サーベイでは芽球の鑑別を行う設問を出題した。末梢血液像において、芽球を検出し報告することは異常に重要であるが、単核の細胞である芽球の形態はリンパ球や単球との鑑別に悩むケースがある。画像サーベイの回答では多くの施設が正解しており芽球鑑別の基礎はできていると考えられるが、芽球とリンパ球、反応性リンパ球、異常リンパ球と形態を比較しつつ、鑑別・判定ポイントを確認していただいた。

治療薬についてブリストル・マイヤーズ株式会社に依頼し「非弁膜症性心房細動における抗凝固療法」として新規経口抗凝固薬(NOAC)について話していただいた。NOAC はモニタリング不要として売り出されたが、出血リスクの管理が必要であり、効果をモニタリングしたいとの臨床の希望もある。今後、我々の凝固検査の扱いも変わってくる可能性があり、新しい検査の必要性もでてくる。新しい治療が臨床に出ることで検査も変わってくるため、我々は治療についても知り、変化に対応していくため常に新しい知識にアップデートしていく必要がある。

今回、疾患にフォーカスを当てた内容をシスメックス株式会社に依頼し「血液凝固検査と

関わりの深い静脈血栓塞栓症の基礎について「～診断・治療・検査の最新トピックス～」として話していただいた。今回の内容の中で特に可溶性フィブリンモノマーについて興味深かった。日常行われる凝固検査は出血性素因をとらえる上では非常に有効な検査であるが、凝固亢進または血栓をとらえることは必ずしも完璧ではない。Dダイマーが広く用いられてはいるが血栓に対して線溶が働き初めて上昇するため、凝固亢進を鋭敏にとらえることは難しく患者の病態を直接反映しない場合がある。今後、分子マーカーといわれる可溶性フィブリンモノマーなどの必要性は高いと考えられ、我々の検査の利用、臨床への有用性について改めて考える良い機会となった。